

第7回デイサービスゆうゆうの家運営推進会議

開催日時	令和元年9月28日 16:30 ～ 17:30
開催場所	デイサービスゆうゆうの家 食堂
参加者 (7名)	ご利用者様 酒井様 ご利用者家族様 嶋口様 近隣住民代表 富永様 民生委員 中田様 南第2地域包支援センター職員 辻野様 デイサービスゆうゆうの家代表 田中久嗣 デイサービスゆうゆうの家管理者 田中三代子
司会進行	管理者 田中三代子
議事録	田中 久嗣

1 当日の次第

- (1) 開会の挨拶
- (2) 出席者の紹介
- (3) 前回議事録の配布
- (4) 活動状況の報告
- (5) ヒヤリハット、事故等の報告
- (6) デイサービスにおけるリロケーションダメージ
- (7) 出席者からの活動状況の評価、要望、助言等の傾聴
- (8) 意見交換、質疑応答
- (9) 閉会の挨拶

- (1) 開会の挨拶
- (2) 本日の出席者の紹介をさせていただきます。
- (3) 前回の議事録を配布させていただきます。この議事録は当施設のホームページにて公開していますのでどなたでも閲覧できるようになっています。
- (4) それでは活動状況の報告です。
令和元年9月の当事業所の利用者数はのべ162人です。
(要支援者3名、要介護者15名)
1日平均6名です。
一日の利用者平均介護度は2.2です。
活動報告
4月チューリップ観賞 (リサイクル公園)
5月つつじ観賞 (原山台近隣センター)
9月夏祭り

(5) ヒヤリハットと事故の報告 (H31.4月～R1.9月)

ヒヤリハット8件

事故 0件

(6) デイサービスにおけるリロケーションダメージについて

後述

(7) それでは活動状況の評価や要望、助言等をお聞かせ頂きたいのですが・・・

辻野様) ヒヤリハットの内容について感じた事です、細かいところに注意し介助されているのが良く分かります。報告も全員で共有され事故防止に繋がると思います。

事故が起こるのは、その前に数多くのヒヤリハットがあるはずで、それを見落としていたから起こると言われていますね。

酒井様) ここは楽しく利用させて貰っています。けど私こんなヒヤリハットって、こんなん実際あるんやね。やっぱり危険やねんね

田中久嗣) それなりに危険ですよ、細かいのはもっといっぱいありますよ。

田中三代子) そうですね、横についてフラッとされたけど支えたとか

田中久嗣) 以前、ミニヒヤリハットというのを書いていたのですが、この春からまた始めました。ヒヤリハットになる前のミニのヒヤリです。ヒヤリハットはどうしても書類として手間もかかり、報告として上がり難いこともあります。ミニヒヤリハットは大学ノートに日記のように書けますから、報告がグンと増えます。それでいて、全員、自分が書く時に目を通す。注意喚起にすごく役立っています。

中田様) 介護者が介護の辛さから潰れかけている方が、私の周りにもけっこうおられます。老々介護で大変な方も、そんな方々を見ていると、施設はご苦勞で大変だと思っています。

(8) 続きまして、質疑応答に入りたいと思います。

富永様) (リロケーションダメージについて) ほんまにこんな事あんねんな～ほんまちょっとした変化やのにな～ここでもある？

田中久嗣) 小さい変化でというのは経験ないですね

田中三代子) ここでは少し前ですが、新規利用者様が他のデイから来られ、環境が変わった事が原因で、物取られ妄想が強くなられ帰宅願望に繋がり大変でした。

それではこれをもちまして第7回ゆうゆうの家運営推進会議を終了させていただきます。

次回の来年の3月辺りに予定しております。その際はまたお声を掛けさせて頂くと思いますので、よろしくお願いします。本日は誠にありがとうございました。

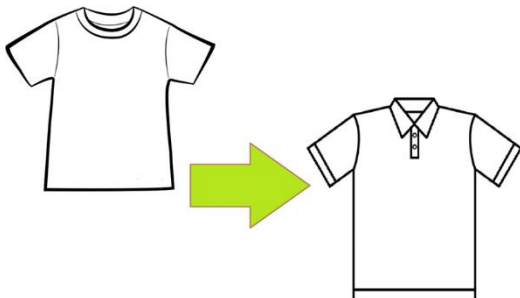
1、リロケーションダメージ「relocation＝移転。引っ越し」

あまり耳慣れない言葉かと思いますが、「リロケーションダメージ」は、「移り住みの害」とも呼ばれ、住環境の変化が心身に負担をかけ、健康を害してしまう現象を指しています。若い人でも体調を崩したりしますが、高齢者の場合は、身体機能を低下させたり、認知症の症状を進行させたりと、心身に様々な影響を与えてしまうのです。

特に認知症高齢者の場合、家族や友人と離れることで孤独感や不安感が増大し、認知症の症状やうつ症状を悪化させたりする例もあります。場合によっては、リロケーションダメージが原因で、今まで認知症の症状が出ていなかった人まで発症することもあるといわれています。

具体的に起こり得る施設環境としましては、特別養護老人ホームや有料老人ホーム・グループホームなど入所されるような場合によく現れます。しかしながら、次の事例のように通所介護にも適合するような事例もあります。

洋服の“襟”が変わるだけで…。些細な変化がもたらす大きな混乱。



ある施設の例を紹介します。その施設の介護職のユニフォームはTシャツでした。ある時、そのシャツが、同じ色で襟付きのものに変更になりました。すると、ある認知症の方が、急に職員のケアを拒むようになりました。“襟がついた”は、その方にとってはとても大きな変化だったのでしょう。認知症の方は、当然ながら何も分からなくなる訳ではありません。ただ、その方にとって覚えていること・慣れていることがちょっとでも変化したり、欠けるだけで分からなくなってしまうたり、別物に見えることがあるのです。ユニフォームの件では、慣れていただけるまで時間はかかりました。

「そんなことで？」と思う些細な変化が、高齢者一さらには認知症のある方にとっては、すぐに対応するのが難しい大きな変化かもしれないということを頭に入れておかないといけません。

つまり、使い慣れた箸や枕が変わっても混乱されることもあります。

リロケーションダメージの予防法とは

リロケーションダメージを引き起こす最大の要因は、急激な環境の変化です。従って、いきなり知らない土地に身を移すのではなく、入所施設ならば事前に数日間のショートステイ期間を作るなど、新たな環境に慣れる時間を作ることが予防につながります。

2、通所介護におけるリロケーションダメージ

通所介護も今まで通った期間・回数が増え、その利用者様にとっては慣れ親しんだ居場所となり、通う密度が増せば入所施設に限りなく近づきます。つまり、週に1回、刺激を求めて外出の場として利用する場合と、週の大半を利用される場合とは大きく違うのです。そのような方は変化に対して敏感に反応されます。

予防法としての例

- ・ 大幅な模様替えはしない。
- ・ 大幅なプログラム変更はしない。
- ・ 新人従業員は利用者様が馴染まれるまで、1人での介助は極力避ける。
- ・ 個人専用テーブルや椅子の色や形などが変わる場合は数を少しずつ変更していく。
- ・ 制服の型や色はなるべく変えない。やむを得ない場合は少しずつ変更する。